

第 1 回守山市在宅医療・介護連携推進協議会 議事録（要旨）

会議名	第 1 回守山市在宅医療・介護連携推進協議会
日時	令和 7 年 7 月 25 日(金)午後 2 時から午後 3 時まで
場所	守山市役所 3 階 33 会議室
委員出席者	小西会長、花木委員、松川委員、木戸協委員、小林委員、木戸委員、川上委員、奥村委員、木村委員、長澤委員、今江委員
委員欠席者	野々村委員、坪田委員、角野委員、下野委員、山藤委員
事務局	(健康福祉部)理事 沖田、次長 川上 (在宅医療・介護連携サポートセンター)所長 竹村、課長補佐 川島、係長 大木、主任保健師 寺西、在宅療養支援相談員 石堂
会議次第	(1)報告事項 ア 令和 6 年度の取組状況の報告について イ 令和 7 年度の取組について (2)協議事項 ア 令和 7 年度在宅療養・看取りに関する意識調査の実施について イ エンディングノートの新名称の決定および内容の改訂について
会議資料	守山市在宅医療・介護連携推進協議会 委員名簿 守山市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱 資料 1：令和 6 年度の取組状況について 参考資料 1：これまでの動き 資料 2：令和 7 年度の取組について 資料 3：令和 7 年度在宅療養・看取りに関する意識調査の実施について 資料 4：令和 7 年度在宅療養・看取りに関する意識調査 調査票（新旧対照表） 資料 5：令和 7 年度在宅療養・看取りに関する意識調査 調査票（案） 資料 6：エンディングノートの新名称の決定および内容の改訂について 資料 7：エンディングノート（案） 参考資料 2：「うちの子手帳」
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者	なし

1 開会＜ 竹村所長より開会および沖田理事 挨拶 ＞

2 報告事項

ア 令和6年度の取組状況の報告について

事務局	＜資料1、参考資料1の説明＞
小西会長	在宅看取りの件数は、増えているのか。最終的には、看取りを増やすことが目的だと思う。数値は難しいかもしれないがどうか。
事務局	実際の在宅看取りの数は、事務局では把握してない。自宅死亡率は、看取り以外の自宅での死亡も含まれるので、高ければよいとは考えていないが、自宅死亡率は、コロナ禍では、上がっていたように思うが、ここ数年は減少傾向にある。
小西会長	奥村委員、病院ではどうか。例えば、本人が入院していて、在宅で最期は過ごしたいという方が、在宅へ移行できているのか。
奥村委員	やはりコロナ禍と比べて、在宅の看取りが減っていると思う。また、本人が在宅での看取りを望んで過ごしたいと思われていても、家族が無理なため、在宅での生活が整えられず、病院で最期まで過ごすこともある。そのため、在宅の看取りが増えてきている印象はあまりない。今後、どのようにして自宅へ帰るかということについて、もっと前段階から、気持ちを汲んでいけるような環境にしていかなければならないと思う。
小西会長	木村委員はどうか。
木村委員	済生会守山市民病院では、病院での看取りで紹介され来院されることが多い。数件しか、在宅での看取りの紹介や調整をしたことがないのが現状。

イ 令和7年度の取組について

事務局	＜資料2の説明＞
木戸脇委員	守山顔の見える会で、介護関係者の出席が少なくなっているという話があった。どのような内容だと比較的出席者が多くて、どのような内容だと少ない傾向があるのか。
事務局	医療的な内容や薬剤の話などになると、看護師や薬剤師の参加が多い印象がある。今回8月に予定しているACPに関しては、介護福祉士の参加申込も多くあるため、ACPという話題は、医療と介護関係者のどちらに対しても、関心がある話題であると考えている。
川上委員	今年度の取組で、ステージⅢ・Ⅳの取組みがない状況である。年度によって重点事業が変わり、力を入れる課題はあると思うが、ステージⅢの「救急対応」では、国の政策の方針で、高齢者救急対応が具体化されていく。今年度で取組みがないとしても、いずれは、高齢者救急、特に在宅療養している方の救急対応について必要となってくる。そこに対する考えはあるか。

事務局	守山顔の見える会では、年に1回もしくは2年に1回は救急対応についてのテーマを設定するようにしている。救急対応への事業を重点とする場合は、ステージⅢに記載したい。
小西会長	ACPと直接関係ないかもしれないが、万が一、自宅で亡くなっているところを発見した場合、どうするかは大事なことで、家族は亡くなっている状態でも何とかすれば助かると思っていることも多い。そのため、在宅療養中の方の救急要請ということについては、しっかりと啓発していくことも必要。
事務局	今年度図書館での啓発展示を予定しているため、そこで在宅療養者の救急対応についても啓発できればと思う。

3 協議事項

ア 令和7年度在宅療養・看取りに関する意識調査の実施について

事務局	<資料3・4・5>について説明
川上委員	家族のACPについて追加してもらったが、さらに発展させると、家族と話し合って、話し合った後にどう行動したのか、例えば「ノートを書いた」や「気持ちを確認した」、「連絡先のリストを作った」など、どう行動したかと聞いてはどうかと思う。今回は家族のACPについて初めて聞くため、今回の調査で聞いてみて、次回以降にどう行動したのかを聞くという方針でもよいと思う。 あと、問16にエンディングノートに関する質問があるが、自分で持っているのか、家族に見せたのか、医療関係者と共有したのかなど書いたエンディングノートをどうしたのかという質問を加えてもよいと思う。
小西会長	エンディングノートについては、個人の思いを書いてもらい、その後どうしていくかという相談になると思う。本人がこうしたいという気持ちを書くことを大事にしたい。そして、家族が本人の思いに添いながら最期までどう看ていこうかという話になる。
今江委員	エンディングノートは個人の思いを書くもので、それをどうしたか、家族に見せるのかということは、別に、エンディングノートを書く時点で問題にシなくてもよいのではないかなと思う。もし、万が一、自分が大きな病気になった時や終末期を迎えないといけない等の段階になれば、今度はACP（人生会議）に移っていくと思う。そういう流れがある方が好ましいと思う。
小西会長	花木委員だとそういった経験が多いと思うがどうか。
花木委員	本人の意思がわからない場合には、誰を呼ぶのかということが問題になる。家族が代理の意思決定者になるが、エンディングノートなどに記載していた本人の希望に基づいて決定していくと本人の思いも叶えられ、家族の負担も減る。本人の意思がわからない場合、家族だけで決めることになり精神的な負担になる。 エンディングノートに書いた上で、共有しておくことも大切だと思う。

イ エンディングノートの新名称の決定および内容の改訂について

小西会長	経鼻胃管について、簡単に維持できるという記載になっているが、無理をしていれるとショックを起こす可能性もある。私自身の経験では、経鼻胃管よりも胃ろうの方がよいと思っている。経鼻胃管にもリスクがわかるような記載にしてほしい。
事務局	表記方法については、小西会長に相談しながら修正する。
花木委員	先ほど川上委員が非常によいことを言われていた。共有するということが重要になる。誰に共有したのかわかるように最後のページに記載欄ができればよい。
事務局	最後のページに追加する。
川上委員	エンディングノートの要約版のようなものを作り、親族の連絡先やかかりつけ医の連絡先、終末期にどこで過ごしたいのかなどが簡単に共有できるようにしてはどうか。要約版をお薬手帳と一緒に持つておくことで、効果的に活用できるのではないかと思う。東京都で実際に作成されている行政もあるため、検討してほしい。
小西会長	エンディングノートと在宅療養手帳の関係はどうか。エンディングノートは誰が持つものなのか。
事務局	エンディングノートについては、本人や家族が活用するもので、在宅療養手帳は、本人、家族に加えて支援者間での情報共有するツールと認識している。
小西会長	在宅で急変したときに今後どうするのかということが大事になる。医療機関でも、延命治療に関する本人の意思を共有したい。延命治療を拒否しているのに救急搬送されてしまうこともあるため、現場ですぐに本人の意思を確認できるものにならないか。
事務局	長寿政策課で救急搬送されたときに、連絡先やかかりつけ医を記載したシートを冷蔵庫に保管するという命のバトンという取組を行っている。その取組を応用することで、できるかもしれないため、検討する。
小西会長	救急搬送される前にある程度のことがわかれば、無駄な救急搬送がなくなるのではないかと思う。
事務局	検討する。内容は相談しながらいいものが作れたらと思う。
花木委員	エンディングノートの存在があるのか、それがどこにあるのか、誰がそれを知っているのかの3つのポイントだけでも簡単に記せたらよい。
松川委員	医療現場として一番必要な情報は、延命治療に関することで、救急搬送された際に本人の意思がわかればよい。もちろんエンディングノートは書いてもらった上で、延命措置に関することだけシートにして持つておいてもらうこともよいのではないか。また、エンディングノート自体、遺言書と勘違いしている人も多い。介護や延命治療に関しては、家族と共有しているかどうかの確認を入れてもよいのではないかと思う。
小西会長	では、新名称を決めていこうと思う。これだけは絶対ダメという名称はないか。なければ事務局の提案を聞きたいと思う。

全委員	意見なし
小西会長	事務局として提案はあるか。
事務局（寺西）	子どもや孫など家族や大切な人に自分の思いをつなぎ、つながるノートになるようにという思いが込められた「つなぐノート」はどうか。
全委員	異議なし
小西会長	では、新名称は「つなぐノート」に決定する。
事務局	守山市版エンディングノートが「つなぐノート」とわかるような表記をしていきたい。